

# 「新之助」生育速報 号外

令和3年9月7日  
村上農業普及指導センター

## 葉色濃く玄米タンパク質基準超過の懸念！ 登熟期の葉色測定により刈り分け要否を判断！

### 1 生育調査ほ等における生育状況

- 出穂期の葉色は指標値並であったが、その後の低温・少照により褪色が緩慢で、葉色は全般に指標値より濃く推移している。
- 管内の出穂期は前年より5日早く8月11日で、収穫適期が早まると予想される。

#### 新之助生育調査ほの出穂後の葉色調査結果

調査場所	田植日	出穂期	葉色(SPAD)			
			出穂期	出穂15日後	出穂25日後	指標値差
関川村下関(関川)	5月25日	8月19日	36.2	35.8	—	—
村上市牛屋(神林)	5月14日	8月9日	35.4	36.1	34.9	3.9
村上市岩沢(朝日)	5月19日	8月10日	34.7	34.1	33.0	2.0
平均	5月19日	8月12日	35.4	35.3	34.0	3.0
指標値	5月15日	8月13日	35.0	34.0	31.0	—
【参考:前年平均】	5月16日	8月16日	34.1	33.3	29.5	-1.5

### 2 今後の技術対策

#### ◎収穫時期の判断

- ・収穫時期は、出穂期からの積算温度1,050~1,100℃をめやすとする。
- ・成熟期近くになったら必ずほ場で籾の黄化割合(85~90%が収穫適期)を確認して、実際の収穫時期を判断する。茎葉や穂軸の色は栽培条件等で変わるので、必ず籾の色で判断する。

#### 積算温度による収穫適期のめやす(9月6日現在)

出穂期	収穫適期のめやす	積算温度
8月8日	9月23日~9月26日	1,050~1,100℃
8月11日	9月27日~9月30日	
8月14日	10月1日~10月4日	

- ・出穂期以降の平均気温(気象観測地点:村上)により積算温度を計算、9月7日以降は平年値で推定した。
- ・最新の積算温度は村上地域振興局農林振興部HP「水稻の収穫適期判定に関する情報」で確認できる。

・現在、葉色は指標値に比べ濃く推移している。玄米タンパク質含有率が食味・品質基準値を超過する恐れのある部分(ほ場)では、出穂 30 日後頃に葉色調査(SPAD 値の測定)を行い、下図のめやすを参考に刈分けの要否を判断する。

(刈り分ける場合は、乾燥・調製も別扱いとし、検査時まで確実に区別できるように管理する。)

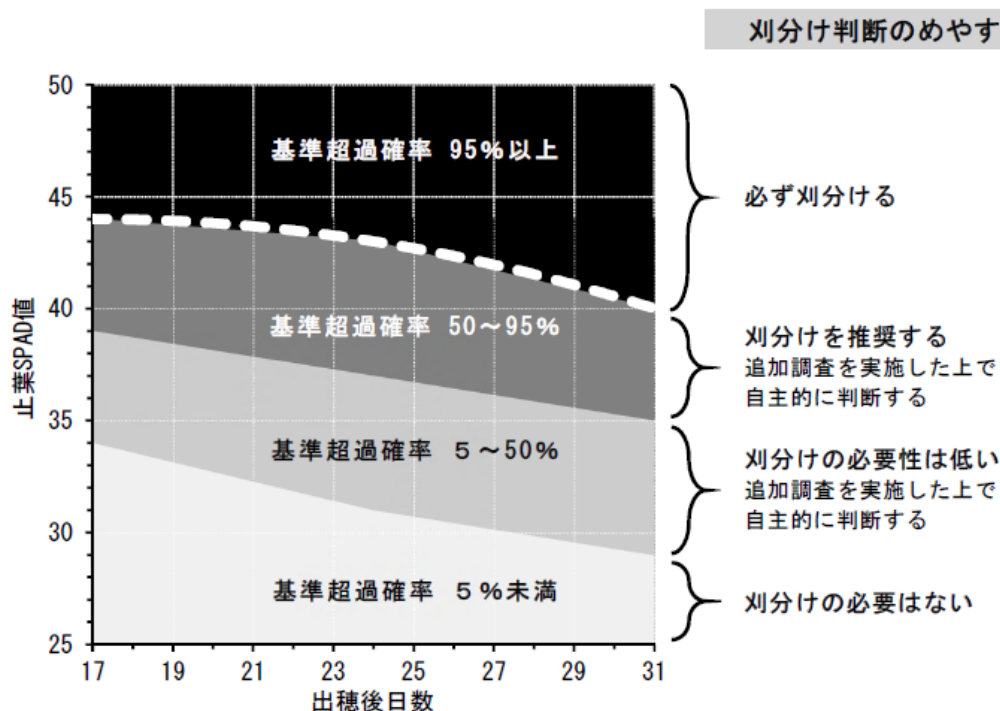


図 「新之助」の出穂日数と止葉 SPAD 値に基づく玄米タンパク質含有率基準値(6.3%)の超過確率とそれを基にした刈分け判断のめやす (新潟農総研 R2 成果情報)

### ◎乾燥・調製の留意点

- ・ 胴割粒の発生を防止するため、乾燥は籾水分を確認の上、適正温度及び適正速度で行い、急激に乾燥させない。
- ・ 収穫時の水分が高い場合は、乾燥機の送風温度が高いほど食味が低下するので、低い温度で乾燥する。また、同じ乾燥速度でも初期水分が高いほど胴割粒が発生しやすいので、乾燥機のマニュアルに従って適正な乾燥速度になるように設定する。
- ・ 成熟期にフェーン現象で乾燥した日が続いた時は立毛胴割れの発生が懸念されるので、乾燥機の送風温度を通常より低めに設定する。乾燥速度を毎時 0.5% 以下にして乾燥する。
- ・ 粒厚の薄い玄米はタンパク質含有率が高いので、必ず 1.9mm 以上のふるい目を用い、流量調節を適正にして、未熟粒やくず米を確実に除去する。
- ・ 色彩選別機を使用する場合は、選別状態の確認と感度調整をこまめに行い、より効率的な選別を心がける。